

製品名: NARF ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14409**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	NARF
別名	NARF; Nuclear prelamins A recognition factor; Iron-only hydrogenase-like protein 2; IOP2
遺伝子 ID	26502.0
SwissProt ID	Q9UHQ1
免疫原	抗血清はヒト NARF 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 262-311

背景

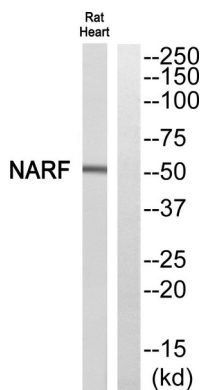
いくつかのタンパク質は、カルボキシル末端でプレニル化およびメチル化されていることがわかっています。プレニル化は当初、膜接着にのみ重要であると考えられていました。しかし、プレニル化のもう 1 つの役割は、タンパク質間相互作用における重要性である

るようです。哺乳類細胞でプレニル化されることが知られている核タンパク質は、プレラミン A と B 型のラミンのみです。プレラミン A は、カルボキシル末端 CaaX モチーフのシステイン残基上でファルネシル化およびカルボキシメチル化されています。この翻訳後修飾されたシステイン残基は、プレラミン A がエンドプロテアーゼによって成熟ラミン A に処理される際に除去されます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、プレニル化されたプレラミン A カルボキシル末端テールドメインに結合します。これは、プレラミン A エンドプロテアーゼ複合体の構成要素である可能性があります。コードされているタンパク質は核内に存在し、部分的に核ラミナと共局在します。PTM:DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。類似性:NARF ファミリーに属する。サブユニット:LMNA と相互作用し、ファルネシル化された C 末端ドメインに結合する。組織特異性:普遍的に存在する。主に骨格筋、心臓、脳に発現する。、

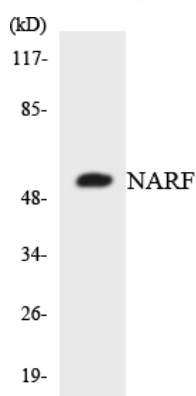
研究分野

転写; ドメインファミリー; ジンクフィンガー; 細胞生物学; タンパク質分解/ユビキチン; プロテアソーム/ユビキチン; ユビキチン E3 酵素; リングフィンガー E3 リガーゼ; エピジェネティクスと核シグナル伝達; 細胞周期; ユビキチンリガーゼ

画像データ



NARF 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは NARF ペプチドでブロッキングされている。



NARF 抗体を使用した 293 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。